

## 10 親・義親との関係

### 10-1 父親・母親との関係

#### 1) 親の属性

本節では、回答者自身の父親・母親（以下、親）との関係（調査票 問 17）について検討する。以下では、父親・母親別にいずれかが健在であるケースについて分析をおこなう。

(a) 血縁関係の有無 「実のご両親ですか」という問いに対し、「はい（実父／実母）」「いいえ（養父・継父／養母・継母）」という選択肢を設けている。親が健在の者のうち、父親は 98%が、母親は 97%が実親であった（割合は、無回答、非該当を除外した値。以下同じ）。

(b) 年齢 父親の年齢は平均 70.0 歳（レンジ 49-100、SD 9.19）、母親の年齢は平均 71.1 歳（レンジ 48-104、SD 10.69）である。

(c) 配偶関係 両親が健在であるケースについて、現在「夫婦である」割合は 96%、「夫婦ではない（離婚した）」割合は 4%、「もともと夫婦ではない」割合は 0.1%である。

(d) 就労状況 父親・母親の就労状況について、「仕事についている」「無職（定年退職者、主夫／主婦を含む）」という選択肢を設けている。仕事についている割合は、父親が 42%、母親は 23%である。NFRJ98 と比べて、母親の就労割合はほぼ同じであるが、父親の就労割合は 3 ポイントほど低下した。

(e) 居住場所 父親・母親が居住する場所について、「自分と同じ家屋」「同じ敷地内のはなれ・別棟」「となり」「歩いていけるところ」「片道 1 時間未満のところ」「片道 3 時間未満のところ」「片道 3 時間以上のところ」という 7 つの選択肢を設けている（選択肢が NFRJ98 と異なり、同居・近居の扱いが厳密になっている）。同居（「自分と同じ家屋」に住んでいる）の割合は、父親は 22%、母親は 24%である。NFRJ98 に比べて、それぞれ約 3 ポイント低下している。父親、母親の居住場所を回答者の性別に見ると（図 10-1）、男性の方が親と同居している割合が高く、男性は父親・母親ともにおよそ 30%が、女性は 15%ほどが同居している。また、父親よりも母親と同居している割合が高い。

図 10-2 には、いずれかの親が健在のケースについて、親と同居する割合を回答者の性別・年齢階級別に示した（年齢階級は出生年変数から作成）。男性では 38-42 歳層で、女性では 48-52 歳層で同居している割合が最も低い。若年層では男女差が小さく、高齢層ほど拡大していく傾向にある。

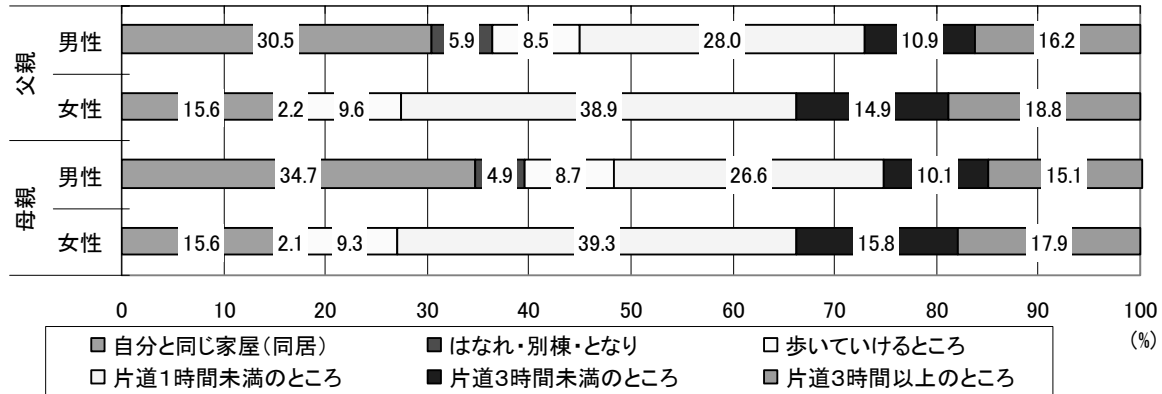


図 10-1 親の居住場所

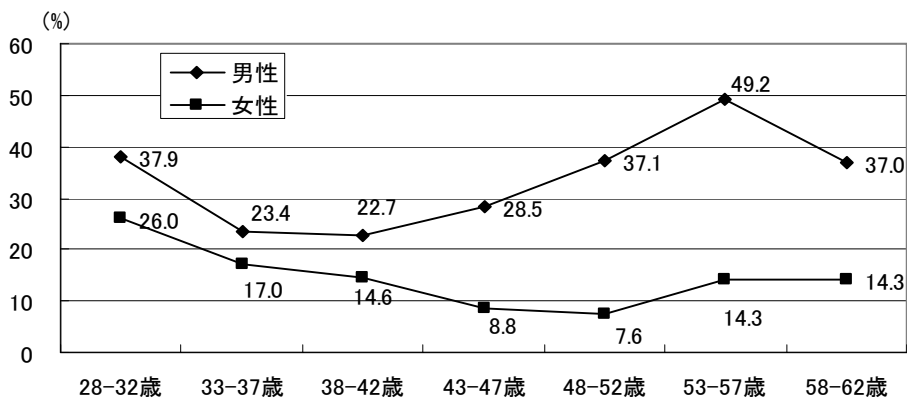


図 10-2 親との同居割合

(f) 親の学歴 NFRJ03 では、父親・母親の学歴（最後に行った学校）を尋ねている。結果は、表 10-1 にまとめて示す。なお、NFRJ98 では、父親の学歴のみを尋ねており、選択肢も異なっているが、NFRJ03 では「中学校」が約 20 ポイント減少し、「高校」が約 15 ポイント、「大学」も約 6 ポイント増加している。

表 10-1 親の学歴 (%)

	父親	母親
未就学	0.3	1.3
中学校、旧制小学校	42.2	46.7
高校、旧制中学	38.1	42.5
各種専門学校(高卒後)	2.3	3.4
短大・高専、旧制高校	3.2	4.1
大学(4年制)	13.7	1.9
大学院	0.3	0.1
合計(実数)	100(2342)	100(3526)

## 2) 親との相互作用

(a) 「話らしい話」の頻度 この1年間に父親、母親それぞれと「話らしい話」をした頻度（電話なども含む）を図 10-3 に示す。分布は NFRJ98 とほぼ同様に、父親よりも母親との間で「話らしい話」をした頻度が高い傾向が見てとれる。

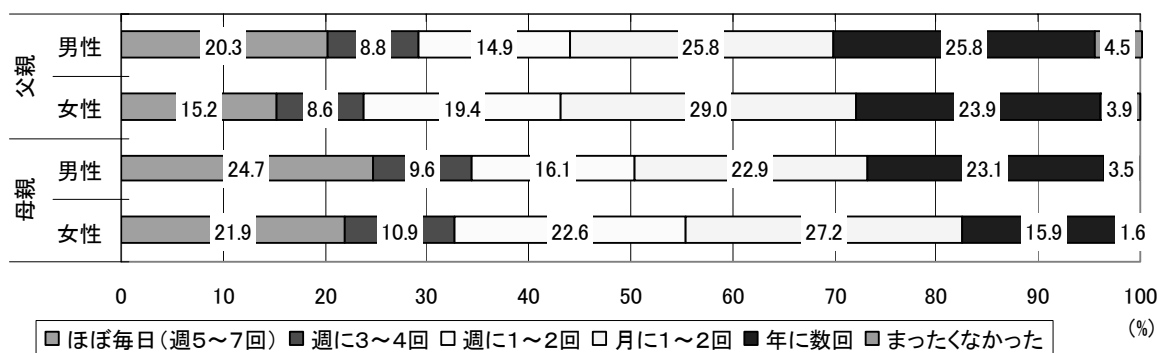


図 10-3 親との「話らしい話」の頻度

(b) 金銭的な援助の授受 父親、母親それぞれとの、この1年間の金銭的な援助(小遣い、仕送り、贈与など)の授受の経験を尋ねている。金銭的な援助を「受けた(年間30万円以上)」および「受けた(年間30万円未満)」の割合の合計は、男性では父親からが25%、母親からが23%であるのに対して、女性では各30%、29%であり、女性の方が金銭的な援助を受けた割合が高い。これに対して、回答者がこの1年間に金銭的な援助の提供をした割合は、男性では父親へが21%、母親へが26%、女性では各22%、30%であり、援助した割合も女性の方が高い。質問の方法が異なるが、NFRJ98に比べ、金銭的援助の授受の経験割合は全体的に低下しており、とくに男性では約8ポイント低下している。

父親、母親それぞれについて、回答者の性別・年齢階級別の金銭的援助の授受経験割合を図10-4~10-5に示す(10ケース以下の年齢層は表示していない)。男性より女性の方が、援助の受領よりも提供経験の割合が高くなる時期が早い。

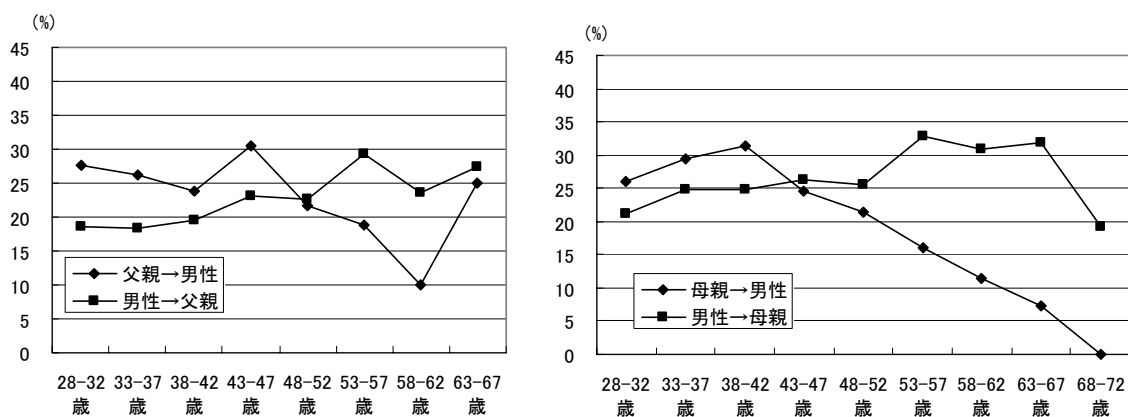


図 10-4 親との間の金銭的援助の経験割合 (男性)

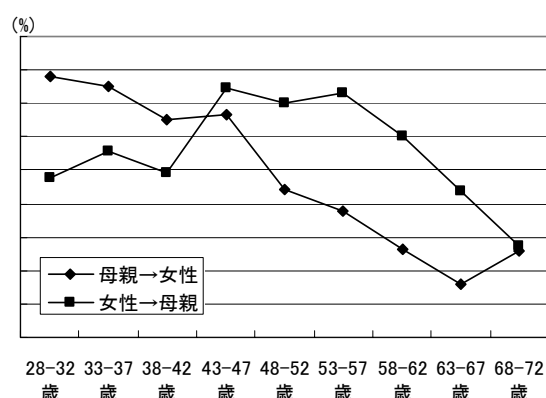
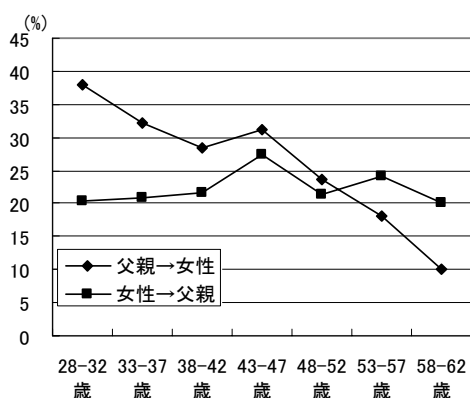


図 10-5 親との間の金銭的援助の経験割合 (女性)

(c) 金銭以外の援助の授受 父親、母親それぞれとの、この1年間の金銭以外の援助（相談にのってもらったり、看病や手伝いをしてもらう）の授受の経験を尋ねている。援助を「受けた」割合は、男性では、父親からが20%、母親からが21%であるのに対して、女性では各30%、38%で、金銭的援助と同様に、女性の方が援助を受けている割合が高い。一方、回答者から親への金銭以外の援助の提供は、男性では父親へは32%、母親へは40%、女性は各39%、55%と、女性-母親（娘-母親）のダイアド間で、金銭以外の援助授受が多くおこなわれている。なお、質問の方法が異なるが、NFRJ98と比べ、親との金銭以外の援助授受の経験割合は、男性では6~10ポイント、女性では各4ポイント低下している。

回答者の性別・年齢階級別の金銭以外の援助の授受経験割合を、図10-6~10-7に示す。父親への金銭以外の援助提供は、年齢層が上昇するほど経験割合が高くなる。また、いずれのダイアドでも30代後半で、金銭以外の援助の受領より、提供経験の割合の方が高くなる。

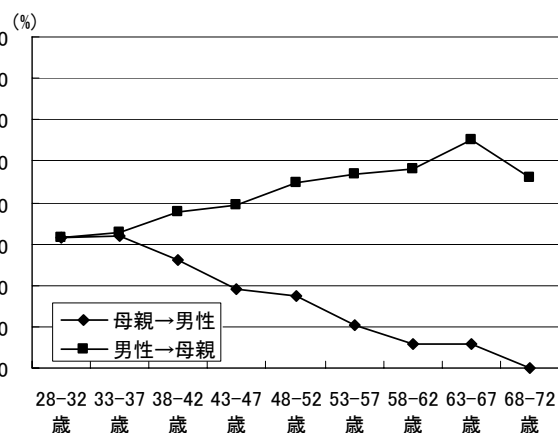
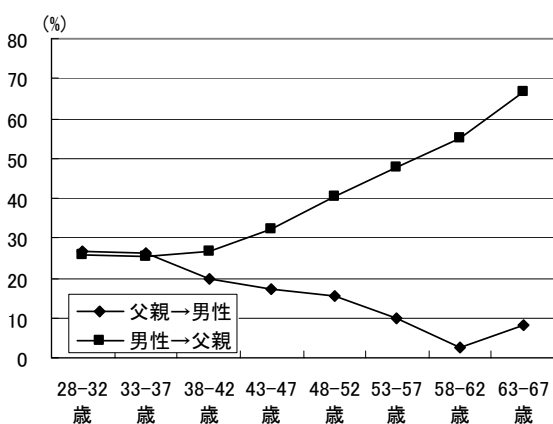


図 10-6 親との間の金銭以外の援助の経験割合 (男性)

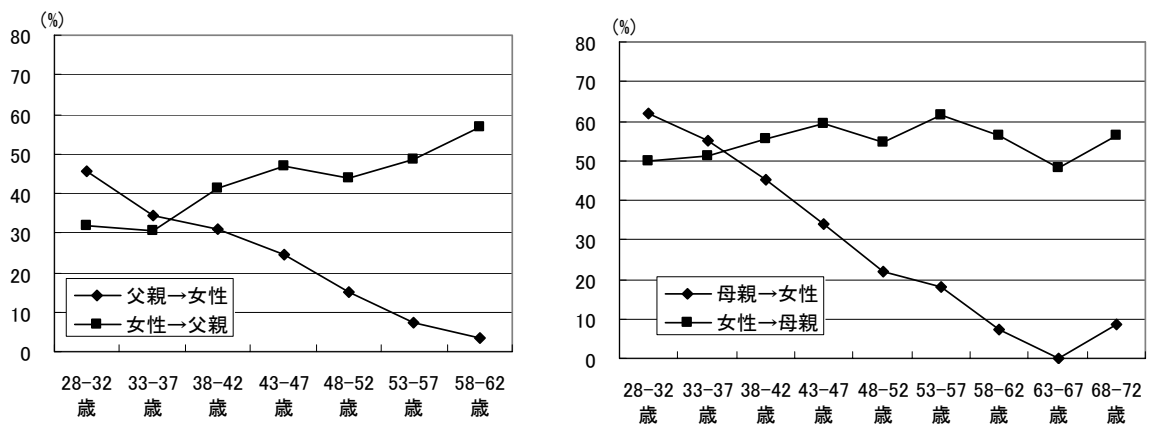


図 10-7 親との間の金銭以外の援助の経験割合（女性）

(d)トラブルの有無と関係評価 父親、母親それぞれとの間に、この1年間にトラブルやもめごとがあった頻度を尋ねている。性別の割合を図 10-8 に示す。父親・母親いずれについても、男性回答者の方がトラブルやもめごとが「あった」者の割合が高い傾向が見られる。質問方法が異なるが、NFRJ98 と比べ、NFRJ03 の方が、親との間にもめごとがあったとする者の割合が若干高くなっている（NFRJ98 では、父親・母親を区別せず、またもめごとの有無のみを尋ねており、「なし」が男性 86%、女性 89%であった）。

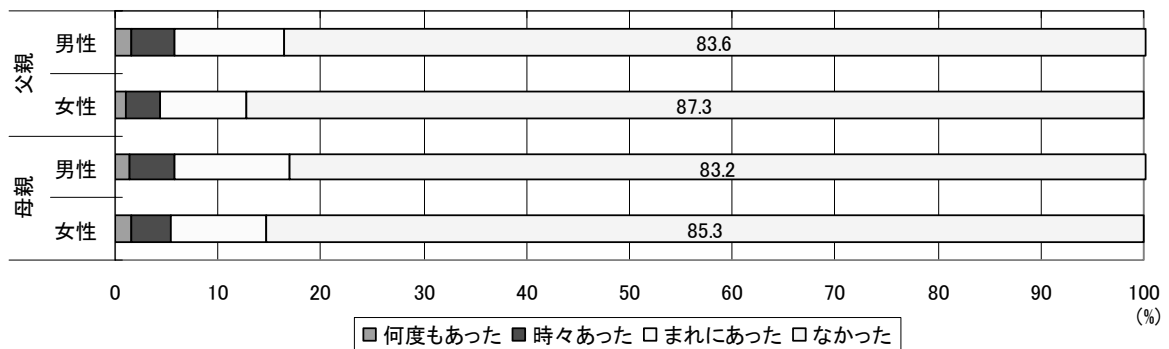


図 10-8 親とのトラブルやもめごとの頻度

父親、母親それぞれとの関係を「良好」「どちらかといえば良好」「どちらかといえば悪い」「悪い」の4段階評価で尋ねている。性別の割合を図 10-9 に示す。「どちらかといえば悪い」「悪い」を選択した割合は、父親は男女とも約 7%、母親は男性 5%、女性 3%であり、関係が良好であると評価するものが多数を占めている。NFRJ98 に比べ、悪い方の評価の割合が増加する傾向が見られるものの、全体の分布はほぼ同じである。

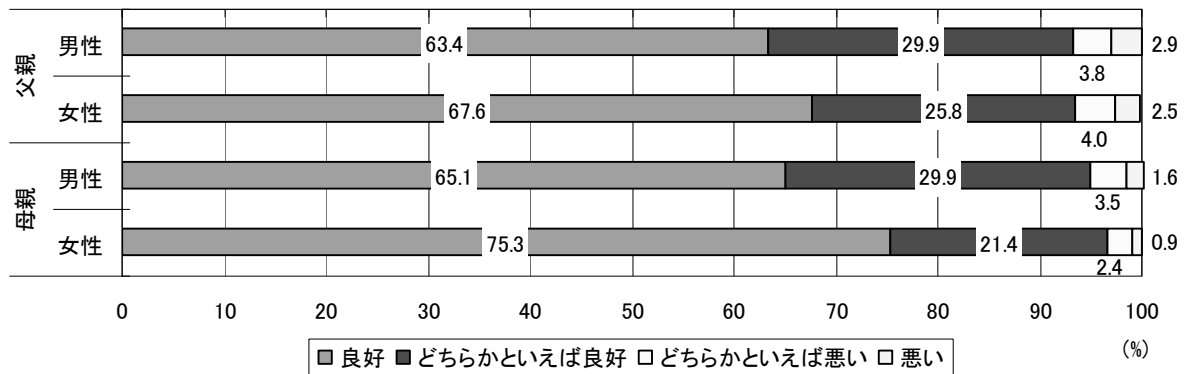


図 10-9 親との関係評価

## 10-2 義父・義母との関係

### 1) 義親の属性

本節では、回答者とその義理の父親・母親（以下、義親）との関係（調査票 問 19）を検討する。以下では、注記のないかぎり、現在配偶者がいる回答者について、義父・義母別にいずれかが健在であるケースについて分析をおこなう。

(a) 年齢 義親の年齢（無回答が 2 割程度存在する）は、義父が平均 71.7 歳（レンジ 42-98、SD 9.27）、義母が平均 72.0 歳（レンジ 41-102、SD 10.45）である。

(b) 配偶関係 両方の義親が健在であるケースについて、現在「夫婦である」割合は 96%、「夫婦ではない（離婚した）」割合は 4%、「もともと夫婦ではない」割合は 0.1%であり、実親についての分布とほぼ同じである。

(c) 就労状況 仕事についている割合は、義父が 39%、義母が 21%である。NFRJ98 と比べて、義父の就労割合は 5 ポイントほど低下した。

(d) 居住場所 義親が居住する場所について、同居の割合は、義父が 12%、義母が 15%である。NFRJ98 に比べ、それぞれ約 2 ポイント低下している。義父、義母の居住場所を回答者の性別に見ると（図 10-10）、義親との同居は夫の親との同居が圧倒的に多く、義父よりも義母と同居する割合が高い。図 10-11 には、いずれかの義親が健在のケースについて、義親と同居する割合を回答者の性別・年齢階級別に示した（居住場所が分かるケースのみ）。全体では、男性の 7%、女性の 23%が義親と同居している。女性では 40 代以降で 30%近くに達するが、男性では最も高い 48-52 歳層でも 13%に過ぎない。義親との同居割合における男女差は回答者の年齢が高くなるほど拡大する傾向にある。

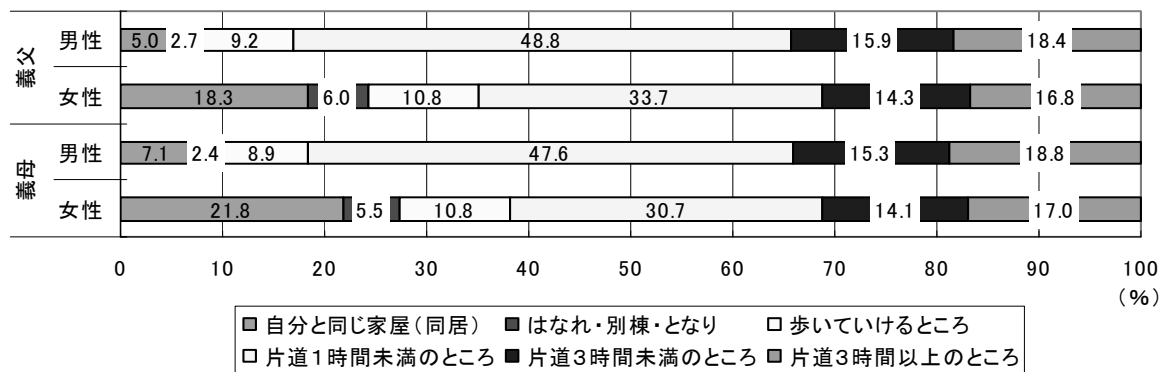


図 10-10 義親の居住場所

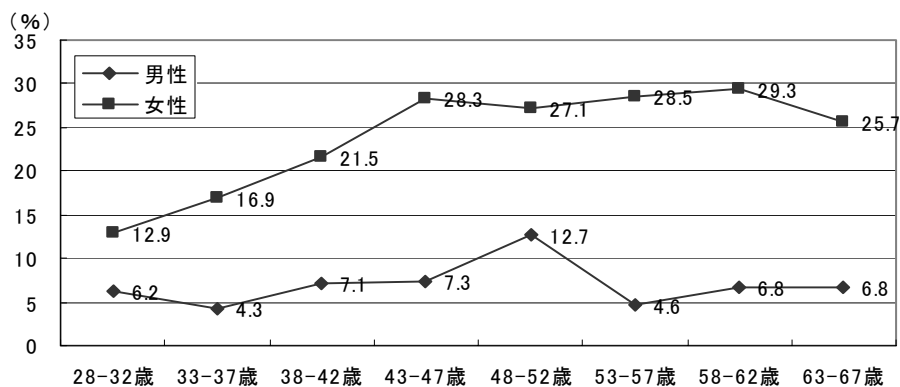


図 10-11 義親との同居割合

(e) 学歴 義親の学歴 (NFRJ98 に含まれない項目) は表 10-2 のとおりであり、実親の学歴とほぼ同じ分布を示す。

表 10-2 義親の学歴 (%)

	義父	義母
未就学	0.5	1.0
中学校、旧制小学校	41.6	45.1
高校、旧制中学	39.6	45.8
各種専門学校(高卒後)	1.7	2.4
短大・高専、旧制高校	2.6	3.7
大学(4年制)	13.6	1.9
大学院	0.3	0.0
合計(実数)	100(1715)	100(2618)

## 2) 義親との相互作用

(a) 「話らしい話」の頻度 この1年間に義親と「話らしい話」をした頻度を図 10-12 に示す。女性の方が義親と話をする頻度が高い傾向があること、義父よりも義母との間で「話らしい話」をした頻度が高いが、その傾向は女性で顕著であることが見てとれる。NFRJ98 と比べ、「ほぼ毎日」の割合が女性では3～5ポイント低下している。

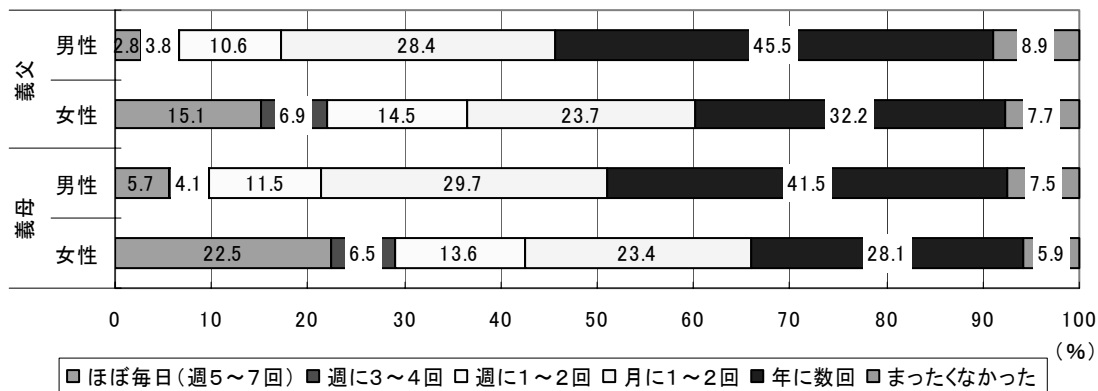


図 10-12 義親との「話らしい話」の頻度

(b) 金銭的な援助の授受 義親からこの1年間に金銭的な援助授受の経験があるかどうかについて、金銭的援助(年間30万円以上および年間30万円未満の合計)を「受けた」割合は男性では義父からが18%、義母からが16%であるのに対して、女性では各29%、27%であり、女性の方が援助を受けた割合が高い。これに対して、回答者が金銭的援助を提供した割合は、男性では義父へが14%、義母へが16%、女性では各21%、27%であり、援助した割合も女性の方が高い。質問の方法が異なるが、いずれかの義親が生存している回答者についての援助授受の経験割合をNFRJ98と比較すると、金銭的援助のやりとりがあった割合は男性では約5ポイント低下している。

義父、義母それぞれについて、回答者性別・年齢階級別の金銭的授受経験割合を図10-13～図10-14に示す(10ケース以下の年齢層は表示していない)。義父への金銭的援助経験割合は年齢階級間で大きな違いがないが、年齢層が高いほど義父から援助を受ける割合が低くなる傾向があるために、おおよそ50代から、子から義父へ向かう援助の方が支配的になる。義母についても同様の傾向があるが、女性回答者では援助と被援助の経験割合の差がより大きく、援助経験が支配的になる時期も早い。

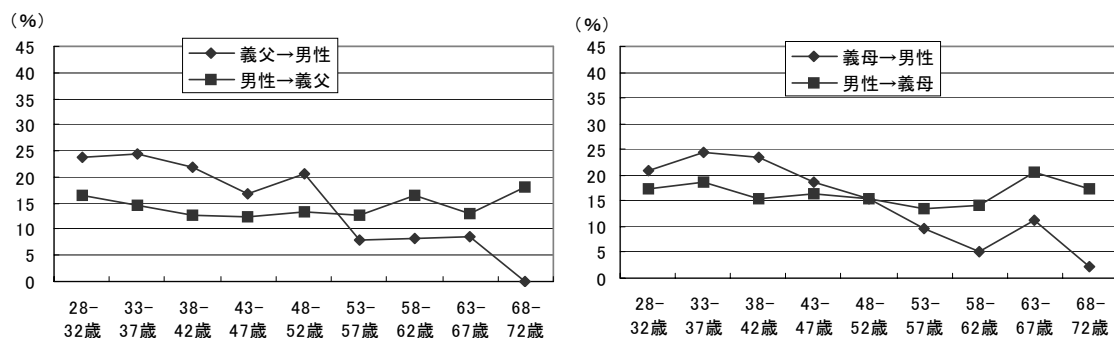


図 10-13 義親との間の金銭的援助の経験割合 (男性)



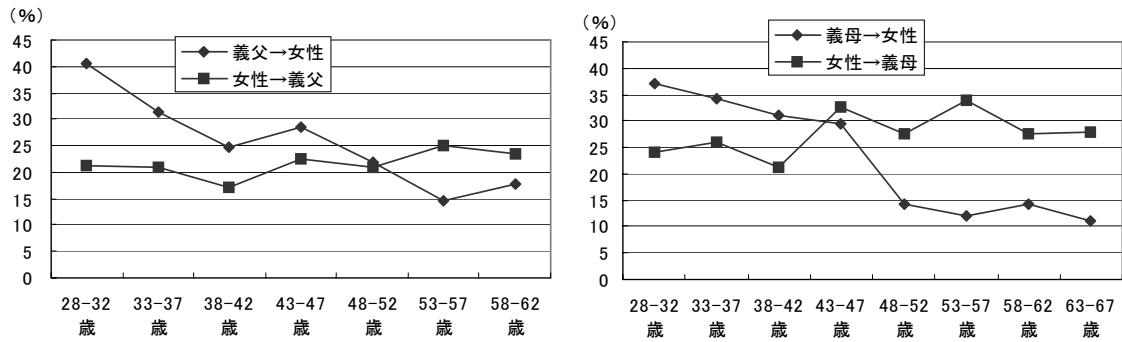


図 10-14 義親との間の金銭的援助の経験割合（女性）

(c) 金銭以外の援助の授受 義父、義母から、この1年間に金銭以外の援助を「受けた」経験がある割合は、男性では義父からが16%、義母からが17%であるのに対して、女性では各25%、28%となっており、金銭的援助と同様に、女性の方が援助を受けた経験があると回答する割合が高い。一方、回答者が義親に金銭以外の援助を提供した割合は、男性では義父へが19%、義母へが24%、女性では各32%、41%となっており、男女差が顕著であると同時に、義母への提供割合の方が高い。金銭的な援助の授受の傾向も踏まえると、女性-義母というダイアドに援助授受経験が集中していることが分かる。なお、質問の方法が異なるが、いずれかの義親が生存している回答者についてNFRJ98と比較すると、金銭以外の援助のやりとりがあった割合は男性では4ポイントほど低下している。

回答者性別・年齢階級別の金銭以外の援助授受経験割合を図10-15～図10-16に示す。男性では40代前半、女性では30代後半に援助提供割合の方が高くなる。また、同居割合と比較したとき、とくに女性の援助提供割合の高さが顕著である。

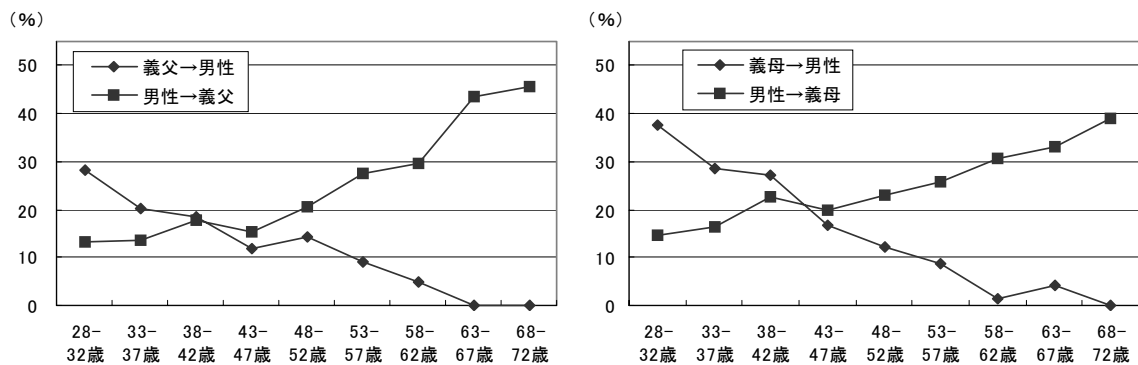


図 10-15 義親との間の金銭以外の援助の経験割合（男性）

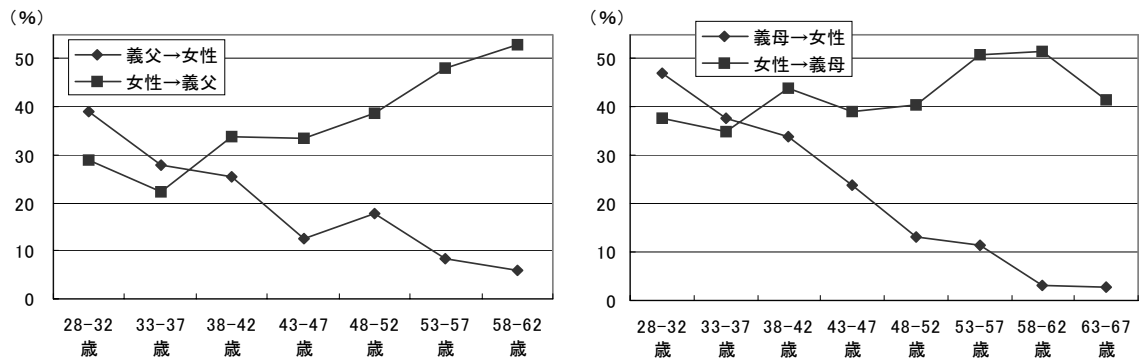


図 10-16 義親との間の金銭以外の援助の経験割合（女性）

(d) トラブルの有無と関係評価 義父、義母それぞれとの間に、この1年間にトラブルやもめごとがあった頻度について、性別の割合を図 10-17 に示す。経験のない者が圧倒的多数であるが、義父、義母いずれについても、女性回答者の方がトラブルやもめごとを報告する割合が高い。質問の方法が異なるが、いずれかの義親が健在の回答者について NFRJ98 と比較すると、NFRJ03 の方が義親との間にもめごとがあったとする者の割合が女性では3ポイントほど高い（NFRJ98 では、義父・義母を区別せずにもめごとの有無のみを尋ねており、「なし」が男性 96%、女性 86%であった）。

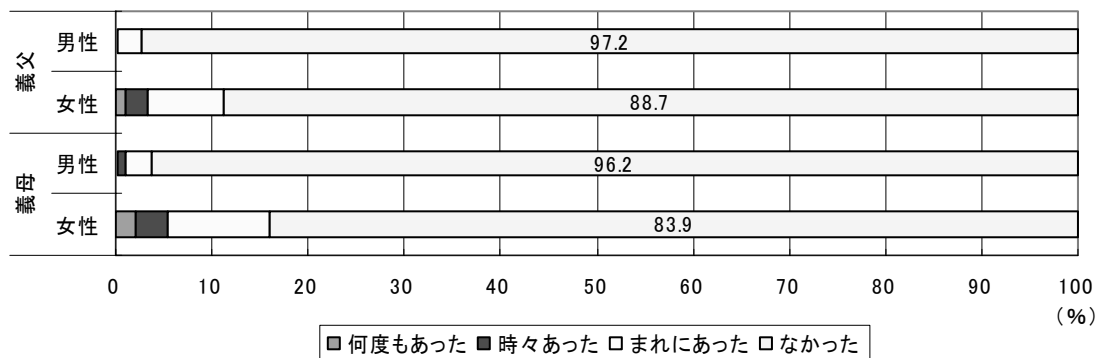


図 10-17 義親とのトラブルやもめごとの頻度

義父、義母それぞれとの関係を「良好」から「悪い」までの4段階評価で尋ねた設問について、性別の結果を図 10-18 に示す。「どちらかといえば悪い」「悪い」を選択した割合は男性で3～4%、女性で9%程度であり、女性の方が高いが、関係を良好と評価するものが圧倒的に多い。NFRJ98 と比べると、「どちらかといえば悪い」「悪い」を選択した割合は、女性で5ポイント程度低下している。

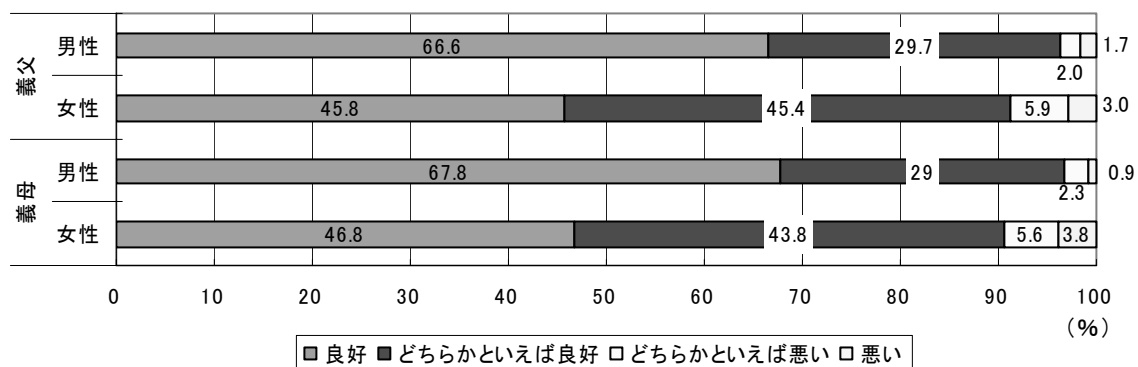


図 10-18 義親との関係評価

### 10-3 小括

- ・親の属性について、親との同居割合は男性 30%、女性 15%であり、若年層よりも中高年層で男女差が大きい。NFRJ98 と比べて、父親の就労割合、親との同居割合が低下している。
- ・親との相互作用について、金銭的および金銭以外の援助経験割合は母-娘ダイアド間で最も高く、金銭的援助は 40 代で、金銭以外の援助は 30 代後半で受領から提供へと転換する。NFRJ98 と比べ、全体的な援助経験割合は低下する傾向が、トラブルや関係良好度は悪い方向の評価が増加する傾向が見られる。
- ・義親の属性について、義親との同居割合は男性 7%、女性 23%であり、中高年層で男女差が大きい。NFRJ98 と比べて、義親の就労割合、義親との同居割合は低下している。
- ・義親との相互作用について、金銭的および金銭以外の援助経験割合は義母-女性というダイアド間で最も高い。NFRJ98 と比べ、全体的な援助経験割合は低下した。金銭的援助は 40~50 代に、金銭以外の援助は 30~40 代に、受領から提供へと転換する。男性よりも女性の方が、義親とのトラブルやもめごとを報告する頻度が高く、義親との関係を悪く評価する傾向が見られる。